

福岡市 難聴・言語障がい 通級指導教室について



福岡市発達教育センター

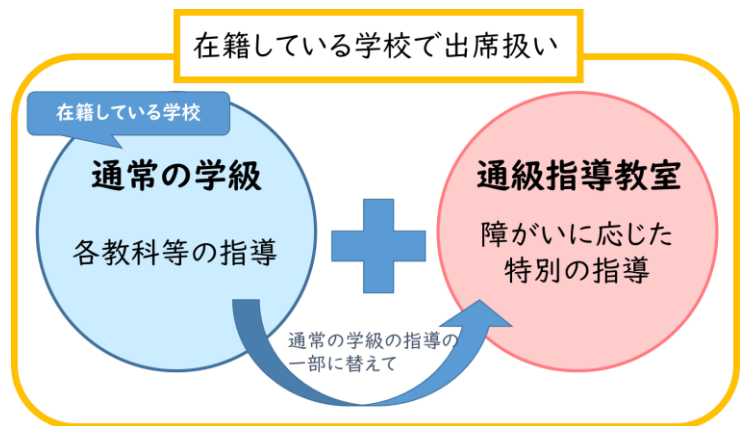
令和4年5月(改)

難聴・言語障がい通級指導教室とは

小学校の通常の学級に在籍している、「きこえ」や「ことば」の面などに、それぞれ苦手さがある子どもたちが対象です。

各教科等の指導は主として通常の学級で行いながら1週間に一度、通級指導教室で個に応じた特別の指導を行います。

**※中学校には
設置されていません。**



どこで通級指導を受けるの？



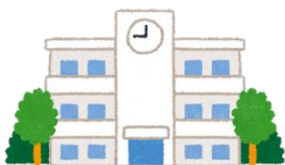
決められた曜日の決められた時間に、保護者の付き添いのもとで通級指導教室のある学校に通います。子どもたちが在籍する自分の学校から、通級指導教室の設置校に通うスタイルを、**拠点校方式**と呼んでいます。

拠点校方式のメリット

- ・ 施設や設備、教材・教具が充実しています。
- ・ 同じ時間に通級してくる子どもたちで、子ども同士が関わり合う小集団の学習を組むことができます。
- ・ 指導後の面談を行うことで、今後の学校活動や家庭生活に活かせることが増えます。

※子どもへの指導と保護者面談を行います。保護者の付き添いが必要です。

在籍している学校



決められた曜日・時間に
週に1回2時間の授業分

通級指導教室設置校



難聴・言語障がい通級指導教室はどの学校にあるの？

詳しくは、福岡市発達教育センターホームページ
『就学相談会について』

1. 概要 ①リーフレット(pdf.)をご覧ください。



<http://www.fuku-c.ed.jp/schoolhp/hattatuc/sodan.html>

中学校には、難聴・言語障がい通級指導教室が設置されていません。
発達教育センターの教育相談で言語聴覚士へ相談することができます。

保護者の付き添いで設置校まで通います。

※ 近隣の学校や付き添いしやすい学校を考慮して通級校が決定します。

※ 卒業生の人数などの教室の状況により、最寄りの学校にならないこともあります。

通級に入る手続きや流れ、指導の継続については？



通級に行っている間の学級での学習は、受けられません。苦手さに合わせた学習に取り組むメリットと、クラスでの授業を抜けるデメリットを在籍校と十分に検討しましょう。

新1年生と在校生では通級に入るまでの主な流れが違います。

通級に入るまでの主な流れ(新1年生)

就学相談会
に参加

お子様の教育的ニーズに合った学びの場について検討し、通級指導が適切と判断されたら**通級候補者**となり、「通級候補者の相談会」へご案内します。

通級候補者の
相談会
に参加

再度、緊急性や必要性などを検討し、**通級対象者**に決定します。

通級決定

3月頃、通級する教室が決定し、4月から1年間の通級指導が始まります。

通級に入るまでの主な流れ(小1~小5)

申し込み前の
確認

医師による障がいの診断名(言語障がい・難聴等)が、申し込み期限日までに必要となります。
※診断書を提出する必要はありません。
※「〇〇障がいの疑い」との診断を受けている場合も受付しております。

通級コース
に申し込み

- 学校と保護者の申し込み資料と、発達検査や聴力検査等の結果を参考に書類選考をします。
- 発達検査が必要と発達教育センターが判断した場合は、学校を通して検査の案内を通知します。
- 通級指導が適切かどうかを書類選考で審査し、「通級候補者の相談会」の**対象か対象外か**を、学校長を通して保護者へ通知します。

通級候補者
の相談会
に参加

- 再度、緊急性や必要性などを検討し、通級対象者に決定します。
- この時に通級する教室(学校)の希望をうかがいます。

通級決定

3月頃、通級する教室が決定し、4月から1年間の通級指導が始まります。

指導の継続・終了の判断について

保護者・在籍する学校・通級指導教室がそれぞれに通級指導の必要性を検討し、3者の意見を総合して、1年ごとに終了が可能か判断します。

例1:本人の成長や環境の変化で通級の必要性がなくなった。

例2:学校や家庭の生活の中で、困る場面が減ったり、困る場面があっても対応できるようになったりした。





どのような子どもが通級しているの？

聴こえに関する苦手さ

発音や話し方の苦手さ

コミュニケーションの
苦手さ

読み書きなど
特定の学習へのつまずき

など...

1人1人の実態に応じた適切な指導を行うとともに、在籍する学級への理解を促し、安定した学校生活や日常生活を送ることができるようにします。



具体的にはどのような学習をするの？

難聴 通級指導教室

◆主に個別指導で行う学習

聴覚管理、装用指導、聴覚学習、言語指導、発音指導

◆主に小集団指導で行う学習

コミュニケーション指導

言語障がい 通級指導教室

◆主に個別指導で行う学習

発音構音指導、吃音指導、
言語指導(話す・聞く・書く・読む・言葉の指導)

◆主に小集団指導で行う学習

コミュニケーション指導

難聴 通級指導教室

聴覚管理・装用指導



聴力検査や聞こえ方のチェックなどを行い、本人や保護者と共通理解をします。

補聴器や人工内耳を適切に活用して生活することや、電池チェックなどの手入れの仕方についても具体的に学習します。

聴覚学習・言語指導



日常生活上の音を聴いたり、言葉を聴き取ったりする活動に取り組みます。

ことばの学習では、文章の読み取りや言葉のきまりについて学習します。難聴のお子さんの場合は教科の補充を行うことがあります。

発音指導



構音検査を行い、実態に応じて発声・発語器官の運動のトレーニングをしたり、発音の練習をしたりします。

また、誤って発音している音と正しい音との違いが聞き分けられるかどうかを調べたりします。

コミュニケーション指導



小集団での指導で、コミュニケーションの練習を行うこともあります。

人前で話したり、役割を担ったりする経験をつむことで、人と関わる意欲や自尊心を高めることにつなげます。

言語障がい 通級指導教室

発音指導



構音検査を行い、実態に応じて発声・発語器官の運動のトレーニングをしたり、発音の練習をしたりします。

また、誤って発音している音と正しい音との違いが聞き分けられるかどうかを調べたりします。



発音の指導では、息の吐き方、口や舌の動かし方などを練習し、音の出し方を身につけます。音の次は単語、単語の次は文章というように、徐々に長い文に挑戦し、会話の中で正しい発音ができることを目指します。

吃音指導



絵本などを活用しながら吃音の知識を教えるようにしています。

楽な話し方を考えたり、仲間と一緒に活動して自己肯定感を高めたりしながら、話すことを楽しむことができるようにしていきます。

言語指導



ことばの指導では、日常生活や学習で必要な語彙を増やしたり、1対1で話す場面を通じて話すこと聞くことの練習をしたりします。

読むこと、書くことに関する苦手意識を軽減できるように、個に応じた工夫をしています。

コミュニケーション指導



小集団での指導で、コミュニケーションの練習を行うこともあります。

相手の話を聞いたり、自分の思いを伝えたりする力や、友だちと協力する力をつけます。

運動の練習として取り組むこともあります。



どのくらいの時間、学習するの？

学校の時間割で2時間分が学習の時間です。通級指導を受ける前後の移動の時間も含めて、在籍する学校での授業は受けられませんが、遅刻や欠席ではなく出席扱いです。

通級指導教室と調整し、1年間、決められた曜日と時間に学習します。

通級担当者の週の指導(例)

	月	火	水	木	金
1	A児	D児	G児	I児	L児
2					
3	B児	E児	H児	J児	M児
4					
	運営会議	教育相談	ケース会議	運営会議	研修
5	C児	F児		K児	
6			会議 研修 教育相談		指導記録の まとめ

<難聴児の通級での基本スケジュール>

柔軟に変更しながら指導します。

	本人	保護者
8:40までに通級に登校		
8:40	①スケジュール確認	
8:50	②聴覚管理・装用指導	
9:10	③発音指導	保護者面接
9:30	④コミュニケーション指導	
9:45	⑤振り返り	
10:10	帰りのあいさつ	
	3時間目までに 在籍学校へ。	

通級と家庭や学校の連携はしているの？



家庭と学校、通級が子どもの良い姿を共有するための連絡ノートを活用します。例えば家でがんばったこと、ほめられたことが担任や通級に伝わり、改めてほめられる流れができます。

保護者は、別室からモニターで指導の様子を見ます。

面談では、指導の内容や一週間の様子などについて話します。

本人・
保護者

在籍校に通級担当が訪問し、学校での様子を見たり、支援について検討したりします。出前授業で難聴について話すこともあります。

年に2~3回、連絡会を通級設置校で行い、支援に関する研修を行います。

通級担当

在籍校
担任

